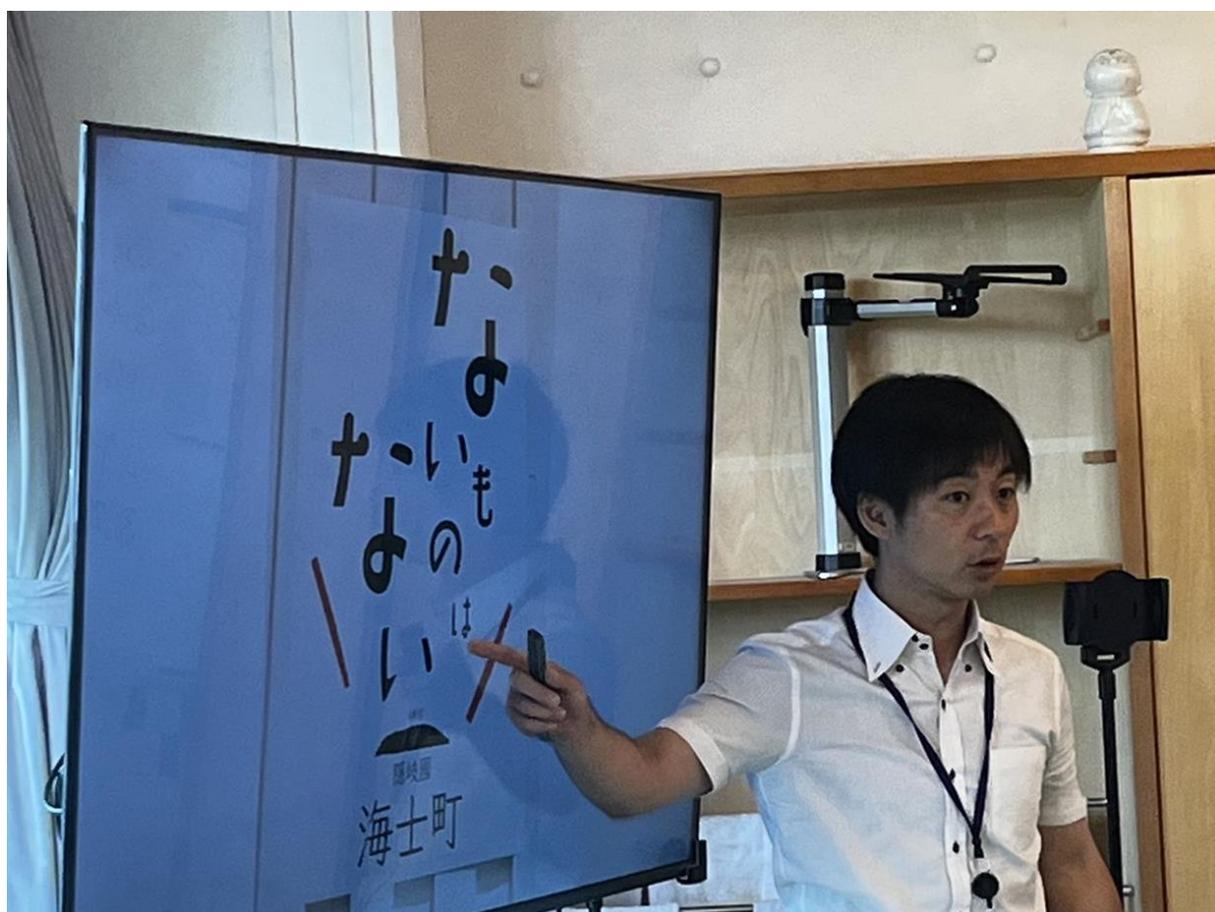


Solan Primary School
4th grade news letter

Venture Fourth

2023 Jul.6

ないものはない



来週の宿泊体験を見据えて、「島」についての学習や体験が続々と始まっています。

まず、月曜日はベネッセの研究者である庄子寛之先生が東京から来られて、島根県の隠岐諸島にある海士町についての学習を行ってくださいました。

海士町は、本土の島根県から船で3時間半かかる場所に浮かんだ島です。

SOLAN の子どもたちは、それを聞いて「エー！」と仰天。

日間賀島は本土からかなり近い場所にあります。島によってはそれだけ離れた場所に浮かぶものもあることを知って、どの子も驚いていました。

さらに、庄子先生は海士町にある「福井小学校」の子どもたちとオンラインでつなげて交流学習も行ってくれました。

お互いに校舎の中を案内したり、小学校や街について質問し合ったりする中で、双方のクラスに何度も驚きの声が上がりました。

「学校が終わったらすぐに海に飛び込んで遊びます」

「エー！！」

「違う県から通ったり新幹線で通ったりしている子もいます」

「エー！！」

「プールの水は海水です」

「エー！！」

「スナックタイムがあります」

「エー！！」

同じ日本の学校でも、これだけ違うことがあるんだとお互いの子どもたちは目を丸くしていました。

その上で、庄子先生は次のように続けました。

日本の人口は減少する→島の高齢化は顕著

人口減の問題は、日本にとって非常に深刻な問題です。

そして、その問題は、先んじて「島」で起きていると庄子先生は教えてくれました。

日本も島国→離島は日本の未来？

つまりは、島の問題を解決することは、日本全体の問題を解決していくことにもつながっていると教えて貰ったわけです。

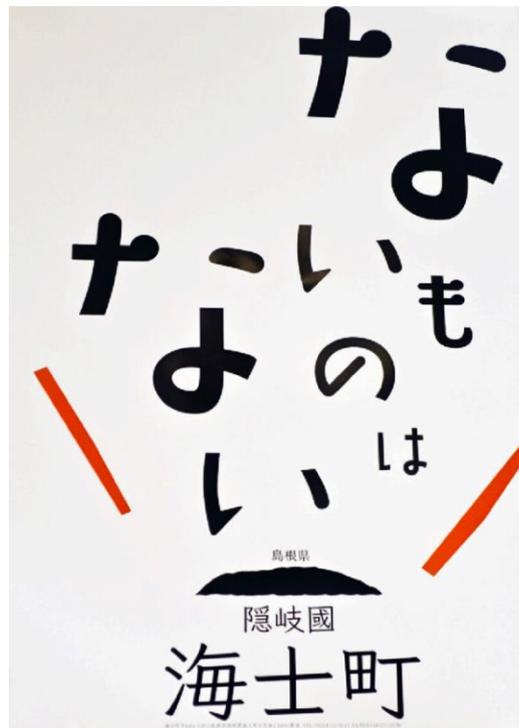
なぜならば、「高齢化して人口が減る島」とは、日本そのものの未来でもあるからです。

それを学ぶために、庄子先生は海士町を選んでくださったのでした。

でも人口が減少せず、若者が入ってくる島がある

島根県 海士町

この続きに、先ほどの通信の冒頭に載せた写真の場面に移ったのでした。



このキャッチコピーは、二つの意味があるそうです。

映画館もないし、コンビニもない、海士町。

「ないものは、ない」のです。

開き直りの表現とも教えてもらいました。

それとともに、もう一つの意味もあります。

それは、海士町がとても「豊か」であるということ。

不便さは、不幸せではありません。

不便さは、人と人とのコミュニケーションを生み出し、繋がりや連帯感といった「豊かさ」を生み出します。

人にとっての幸せをもたらす、人との繋がりや温かさ、思いやりのある関係や素晴らしい自然。

それらが、全て海士町にはあるのだそうです。

つまり、「ないものはない」、大切なものは全てあるとの意味が先のキャッチコピーには込められています。

人の時代

= キーワードは不便から生まれる

コミュニケーション

最後に、庄子先生は、「日間賀島でたくさんのことを学んで来てね」というメッセージと共に次の言葉で授業を締めくくりました。

みんなにお願い！②

- ・日本も島国であることを忘れずに考えてみよう。
- ・これからのことは誰もわからない。新しい発想を！
- ・でもたくさんの人に聞こう。実際に行こう！

日間賀島で、たくさんの人と触れ合い、その中からたくさんのことを学んで帰ってきましょうね。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qaf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

